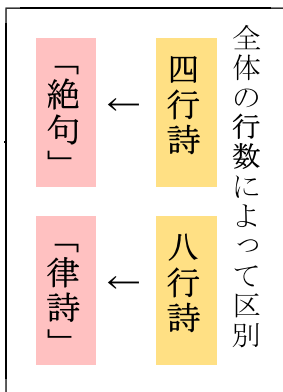
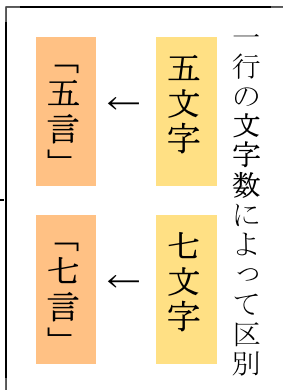


「漢詩のきまり」

組 番 氏名

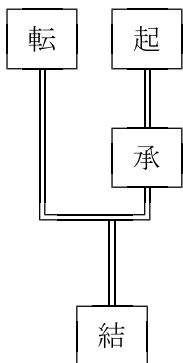
◎ 定型詩として



七言	五言	
七言絶句	五言絶句	絶句
七言律詩	五言律詩	律詩

◎ 構成面について

「起承転結」



◎ 音韻面

(参考) 谷川俊太郎の詩三編。

十ぴきのねずみ

おうみのねずみ　くるみをつまみ
 さがみのねずみ　さしみをこのみ
 つるみのねずみ　ゆのみでゆあみ
 ふしみのねずみ　めやみになやみ
 あたみのねずみ　はなみでやすみ
 あつみのねずみ　むいみなそねみ
 きたみのねずみ　はさみをぬすみ
 いたみのねずみ　かがみがかたみ
 たじみのねずみ　とあみがたくみ
 おおすみねずみ　ぶきみなふじみ

(脚韻をそろえている)

次の詩はどうだろう。

かっぱ

かっぱかっぱらった
 かっぱらっぱかっぱらった
 とってちつてた
 かっぱなっぱかっぱ
 かっぱなっぱいっぱかっぱ
 かってきつてくつた

さる

さるさるう
 さるさるさるう
 さるさるさるう
 さるさるさるう
 さるさるさるう
 さるさるさるう
 さるさるさるう
 さるさるさるう
 さるさるさるう
 さるさるさるう

(頭韻をそろえている)

起 承 転 結

伊勢は津でもつ
 津は伊勢でもつ
 尾張名古屋は
 城でもつ
 「転句」ははずす。

押韻

絶句の押韻（韻の踏み方）には規則がある。

五言絶句では

二句と四句の最後は同じ韻の字を使用する。
一句は作者の選択で、そろえても良い。

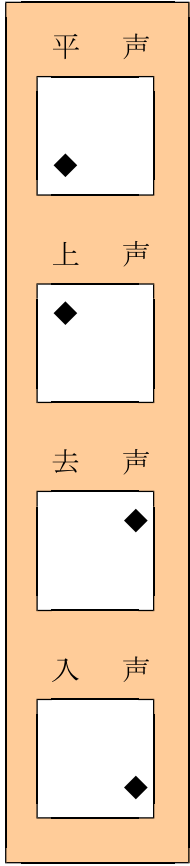
七言絶句では

一句・二句・四句の最後に同じ韻の字を使用する。

考 ◎ 「一韻到底」といって、同じ韻で通す。韻というのは、漢字の響きにより、平、上、去、入の四声をさらに「上」と「下」に区別し、合わせて一〇六に類別したものである。

入声	去声	上声	平声		四声
			下平	上平	
屋沃覚質物月曷黠屑藥陌錫職緝合集洽	送宋箇絳宥寘未御遇霽泰卦隊震問願翰諫霰嘯効号漾敬徑宥沁勘陷禡	董腫講紙尾語麌齊蟹賄賄阮旱潛銑篠巧皓加哥馬養梗廻有寢琰賺	先蕭肴豪歌麻陽庚青蒸尤侵覃塩咸	東冬江支魚微虞齊佳灰真文元寒刪	一〇六韻

漢和辞典で引いてみるとこんな図が載っているに違いない。



鹿柴 唐王維

空山 不見人_ヲ

人語響_ヲ

入_ニ

青上_ニ

空山 人を見ず

だく 人語の響き

に入り

たらず 青の上

楓橋夜泊 唐張継

月

江

城 寒山

声 到_ニ

月 ち いて に つ

江 城 寒山 に す

城 寒山

の 声 に 到る